



【新潟県十日町市】

○十日町市(1)ゴミ・リサイクルに関する取り組み

環境に優しい循環型のまちを掲げ、住民・行政・事業者の意識向上を図るためのエコポイント事業は、画期的であり、十分その役割を果たしていた。また、ごみ分別アプリ「エコラビ」の配信は、ごみの減量化に効果があると感じた。

(2)新十日町市博物館建設事業

来春開館予定の新市立博物館では、収蔵品が、国宝・重要考古資料・重要文化財のため、その収蔵庫等はあらゆる手立てが講じられていることに感じ入った。また、ともに博物館を育てようとの「博物館友の会」の長年にわたる活動も特筆すべき点である。

いづれも、大変参考になる調査であった。

【産業経済委員会】

令和元年7月7日から10日までの4日間、島根県海士町の「海士町の活性化対策全般」についてと、岡山県津山市の「農商工連携推進計画」、「つやま産業支援センター」について行政調査を行いました。

【海士町】

海士町は、島根半島の沖合60kmの日本海に浮かぶ隠岐諸島のうちの一つ、中ノ島にあり、対馬海流の影響を受けた豊かな海と名水百選にも選ばれた豊富な湧水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島である。

◎海士町の活性化対策全般について

(1)町長に対するヒヤリング
海士町長の大江和彦氏と町の現状と外部人材の活用策などについて意見交換を行った。現在の課題としては、海士町だけが成功しても意味がないため、西ノ島町と知夫村と連携した発展が必要とのことだった。

(2)海士町の取り組み研修

交流促進課及び地産地消課の職員から説明を受けた。特徴的な取り組みは、人件費の削減や組織改革などの行財政改革を中心とする守りの戦略と、地域に魅力を見出し磨き上げ、産業として成り立たせる攻めの戦略、さらには、外部との交流を活発に行い、人材の獲得(人脈作り)と将来を担う人材を育成することであった。

(3)岩がき種苗センター施設見学

当初は県から稚貝を仕入れていたが、今年から施設を稼働し、町内で稚貝を育成して業者に供給している。養殖された岩がきは「春香」(はるか)というブランドで売り出されている。同施設の職員は県の水産試験場や東京海洋大学の卒業生を受け入れている。

(4)(有)隠岐潮風ファーム視察

平成16年に建設業から畜産業に参入した代表取締役の田中寿夫氏からのブランド化への道のりなどについて説明を受けた。

◎先駆性と独自性を重視した施策に取り組まれている。既存の概念に囚われずに課題に向き合い、官民一体となつて町を活性化させ、人を育て、まちを創っていると感じた。

【津山市】

津山市は、岡山県北東部に位置し、北は中国山地、南は中部吉備高原に接する、都市と自然が融合する表情豊かな地域である。

◎農商工連携推進計画について

津山市は、工業団地を整備し外部からの企業誘致を積極的に行っていたが、バブル崩壊後の不況により平成7年に地域産業育成ビジョンを作成し内発的な発展を目指すこととした。さらに商業中心の施策から農業に軸足を移すべきと考え農商工連携推進計画を策定することとなった。

具体的には、「つやまFネット」という外郭団体を設立、農商工業者、金融機関、大学、高校、消費者が交流・連携し津山市の強みを発見、商品化する仕組みを構築した。7年間の成果として、横の連携がスムーズになったこと、特産物の地元への認知度が上がったことが挙げられ、事業が継続、発展していくには、儲かるしくみづくりが必要とのことだった。

◎つやま産業支援センターについて
同センターは、津山市の経済成長、雇用の創出・維持を図ることを目的に平成27年に任意団体として立ち上げられた。産業界、教育機関、金融機関、行政、民間が連携し、地域の企業・創業者を総合的に支援している。任意団体とすることで独自決裁や速やかな意思決定が可能となり、市外企業の支援も可能となっている。また、異業種交流により新たな商品開発が生まれ、作り手の意欲の向上、事業の継承やU・I・Tの増加などの波及効果が生まれている。

◎産学官が連携し、地域内循環型経済の構築に取り組まれていると感じた。地域の活性化は地元産業が元気になることが重要で、支援する自治体の形として、「つやまFネット」や「つやま産業支援センター」等の取り組みは大いに参考になった。